

令和3年度 学校自己評価表 (中間評価)

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

教育目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をおして、他人を思いやり、友誼を育み、さらには心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
------	--

重点目標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 生徒の夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域に愛され、信頼される学校づくり 4 専門教育の推進
------	--

評価項目	評価の具体項目	現状	年度当初		評価結果(中間評価)		
			目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策	
1 心身ともにすこやかな生徒の育成	基本的な生活習慣の確立とマナーの徹底【生活部】	・『あいさつ』『時間』『身だしなみ』の三点を中心に、基本的な生活習慣の確立を目指して取り組んでいる。概ねできてはいるようだが、高いレベルでの確立についてはまだまだ意識の低さを感じる。 ・礼法・遅刻・整理整頓の指導をとおして、生活を整える習慣を身につけさせたい。	・年間の『防げる遅刻』回数を20回以下とする。(昨年度は38回) ・校外外で、明るく気持ちのよい、心のこもったあいさつができる。 ・学校アンケート(保護者)の『基本的な生活習慣の確立』と『あいさつ』の項目の1・2評価の平均を90%以上とする。(昨年度は87%)	・時間を守ることの意義を伝え、理解させる。 ・今まで以上に、授業や部活動、SHR、集会等であいさつの大切さを生徒に伝える。 ・生徒会執行部、学科、部活動と連携して、『あいさつ運動』に取り組む	・9/17現在、防げる遅刻9回(R2:11回)、通院等による遅刻15回(R2:21回)、総遅刻数24回(R2:32回)と大きく減少している。しかし、防げる遅刻9回の内訳が、1年1回、2年2回、3年6回と3年生が多くなっている。 ・あいさつについては、すべての生徒が気持ちのよいあいさつができていえるとは言えないが、7月実施の『学校生活アンケート』の保護者回答(問11・規律・マナーについては1・2評価が87%、生徒回答(問12・気持ちのよい対応については)も87%と高い数値を示している。しかし、目標値の90%には達していない。	B	・引き続き、教職員が、様々な場面で時間を守ることの意義やあいさつの大切さを生徒に話し伝えていく。 ・また、教職員自身も、授業や部活動、諸会議等において時間を守る姿を実践し、自らの姿をとおして生徒に伝えることも大切にしていく。 ・生徒会執行部、学科、部活動と連携して、『あいさつ運動』に取り組む。
	部活動・生徒会活動の奨励【生徒部】	・今年4月時点の部活動等加入率(1年94% 2年93% 3年98%) ・生徒会執行部の学年別構成(1年0人 2年6人 3年19人) ・執行部会は生徒会行事前のみ開催 ・学校生活アンケート結果(昨年7月～12月) 学校行事に楽しく参加協力できた 81%→90% 部活動に積極的に取り組んでいる 87%→82% ・生徒部生徒会担当による「指導」「誘導」が目立つ	・加入率の引き上げ(従来は、部活動加入率が評価していたが、今年度は執行部加入も含めてカウントし、加入率95%以上を目標とする) ・執行部への1.2年生の積極的参加 ・生徒会執行部およびクラブ運営委員会の定例化 & 活性化 ・生徒自身による主体的な体育祭・学校祭の企画運営	・部活動未加入者への執行部・学校実行委員会への参加呼びかけ ・LHR等での学年レクでの執行部員の活用 ・会議の定例化と、Googleクラスルームの活用 ・他校の学校祭の見学や執行部との交流の推進	・9月時点での部活加入率(95.2%)。一年生未加入者11名・2年生7名。 ・Googleクラスルームを活用した生徒総会・議案決議、学校祭に取り組んでいる。 ・コロナ禍で他校との交流は困難、実施できず。	B	・10月の学校祭に向けて、執行部の活動強化・次世代育成、クラスルームの活用を一層進めていく。 ・一年生の部活未加入者に対して、執行部加入も含めて声かけを進めていく。
2 生徒の夢や希望をかなえられる学校づくり	進路指導の充実【進路部】	・具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身につけていない。 ・就職希望者支援体制についてはできているが、進路指導に関しては、個別指導による部分が多い。特に4年制大学への進路指導については大学固有の入試制度の研究など大学個別の理解と対応が必要である。	・計画的に進路行事を実施し、キャリア教育を充実させる。 ・小論文指導等の進学希望者に対する支援体制を充実させる。 ・年度内に就職内定率を100%とする。	・進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施、職業観・勤労観の育成に努める。 ・大学入試に関する情報収集を行い、入試改革に対応した指導を、学習指導委員会で提案していく。 ・進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。 ・12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。 ・新型コロナウイルス感染症に対応するため、職場見学、オープンキャンパス、試験に向け、ICTを活用していく。 ・定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部を中心に県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。	・進路講演会はコロナ禍のため延期した。進路学習会、進路説明会、進路LHRは予定通り実施した。 ・新型コロナウイルス感染症に対応するため、Webによる応募前見学会やオープンキャンパスに参加させた。Webによる就職試験を実施する企業が増加した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で企業訪問を例年より控えたが電話やWebを使い積極的に企業や学校の情報収集を行った。 ・入試改革による小論文対策として職員の研修会を行い入試への指導に備えた。 ・業者を講師に招いて、進路部と学年団で学力分析を行った。基礎学力の伸長が課題である。	B	・進路講演会等において進路意識の向上を図るとともに、基礎学力の向上も意識させることを念頭に置いて計画する。 ・基礎学力の伸長の必要性について外部講師による指導・講演の際にも言及してもらうように要請する。
	将来のスペシャリストの育成(資格・検定の取得やインターンシップ)【進路部】	進路部で資格・検定を推進している。生徒は積極的に各科で目標としている資格・検定に挑戦している。 多くの生徒がインターンシップ・デュアルシステムをとおして正しい職業観を養っている。	・更なる資格取得を意欲的に取り組ませる。 ・全ての生徒が正しい職業観を持ち、就職及び進学の準備を早くから行えるように、低学年から進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムの充実をさせ、勤労観・職業観を育成する。	・資格取得・上級資格取得のための計画的に充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。 ・多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするよう促す。 ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実する。	・インターンシップは新型コロナウイルス感染症の影響のため中止した。	C	・インターンシップを経験していないことを考慮し、代替補完の取組を関係の教職員と協議し、立案を行う。
	進路に対応できる学力の定着【教務部】	・基本的な学習規律は身につけているが、生徒の基礎学力や学習意欲に大きな差がある。定期考査や資格取得などに関する学習には意欲的であるが、それ以外の家庭での学習時間は少ない生徒が多い。 ・授業時間数の偏りが生じている。 ・自習時間は減っているが、売り買いボードの活用状況は十分ではない。 ・進路に応じた選択科目の履修ができるよう見直ししているが、新学習指導要領に向けての検討も含め、引き続き見直しを行う必要がある。	・学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ・生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上となっている。 ・授業時間数が確保され、自習時間が削減されている。 ・進路に応じた選択科目が適切に履修されている。	・基礎力診断テストの学習状況調査を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・各教科で課題の出し方等を工夫し、学校全体として家庭学習を促進し、習慣化できるよう取り組む。 ・時間割の入れ替えや授業の売り買いを積極的にを行い、授業が自習時間とならないように取り組む。 ・選択説明を丁寧に行い、進路希望に合った履修を促す。	・基礎力診断テストを計画通り実施し、分析データも届いている。しかし、家庭学習の習慣化に対して、十分な手立てを行うまでには至っていない。 ・分散登校・オンライン授業などで授業の確保など急な対応を求められたが、大きな問題もなく実施することができた。 ・選択科目に関する説明会を開き、希望調査を6月・9月に実施した。今後、進路希望と照らし合わせながら最終調整を行い、10月中には確定していく。	C	・課題のあり方について見直し、家庭学習が習慣化する対策を検討する。 ・新型コロナウイルス感染症の感染が拡大しても、密を避け通常に近い授業形態がとれるよう準備する。 ・授業の入れ替え等を継続し、自習時間の削減・授業時間確保に努める。
	思考力・判断力の向上【教務部】	・生徒は落ち着いてはいるが、反面、主体的に学習に取り組んだり、自ら考え判断し、自発的に行動したりすることができる生徒が少ない。	・思考力や判断力の育成のために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。 ・達成感や自己肯定感を持った生徒が多くなる。	・問題解決にむけて、思考・判断に必要な知識や情報を蓄積させる。 ・授業公開や授業互見、教職員研修会をとおして学び合いを促進し、授業改革を行う。 ・新学習指導要領に対応した新教育課程の検討をはじめめる。 ・学校生活の中で、生徒が活躍できる機会を増やす。	・いくつかの教科で公開授業を実施しているが、参加者が少なく学び合いに向けた意見交換が少ない。 ・生徒が落ち着かない状況での授業が見られる。 ・新教育課程の検討は昨年引き続き行っている。新たに必要科目(学校設定科目)は申請の手続きを進めている。 ・コロナ禍ではあるが体育祭の開催など活躍の場を確保することができた。	B	・公開授業を早めに予告し、積極的な参加を促すとともに、年間に自教科と他教科1つ、計2つの授業を参観することを目標とする(授業実践者は他教科1つを参観する)。 ・学習規律を徹底する。教科担当だけでなく、学年・科など関わる職員で対応する。 ・今後学習規律・ICT活用方法など実践例を学ぶ場の企画設定する。 ・今後、学校祭・研修旅行の実施に向けて分掌・学年と協力し、生徒の活躍できる場を増やす。
地域とともある学校づくり(学校運営協議会)【管理職】	・昨年度、地域が跨れる学校を目標し、学校の情報発信とともに地域の人材やアイデアの活用のために学校運営協議会を立ち上げたが、年2回の開催にとどまり、委員の方に学校に関わっていただく場が限定的で、本来のコミュニティースクールの有り様としては物足りない。 ・学校運営協議会の委員をはじめ、地域の方に対しての具体的な情報発信が少ない。	・地域の方の関わりが増え、地域が跨れる学校に近づいている。 ・多くの生徒が各分野に亘って地域の方と関わり、進路意識の高揚と地域貢献への思いを強く持っている。	・学校カレンダーを始め、行事予定や主要な行事の要項等を運営協議会の委員に配布し、委員の方が学校に足を運びやすい状況をつくる。 ・ホームページ等による情報発信及び情報更新を頻度高く行うとともに、行事予定や要項等を協議会の委員に提示していく。加えて、学校運営協議会での意見を適宜、教職員や生徒会に提示しながら、スピード感をもって改革につなげていく。	・5月に第1回目の学校運営協議会を開催し、委員からの意見・助言を受けるとともに今年度は可能な限り来校していただくことを確認した。従来2回だった学校運営協議会を3回に増やした。 ・学校カレンダー等を委員の方に配付し、ホームページの更新も増やしたが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、来校を増やすことができなかった。	C	・第2回目の学校運営協議会を10月に開催する予定。学校祭等の情報を委員に伝えながら、更なる学校理解と学校訪問につなげたい。 ・ホームページについては、タイムラグ無く情報公開を行うとともに見やすい画面を工夫する。	
地域への情報発信(積極的な広報活動)【総務部】	・ホームページの更新が遅く、情報の発信が少ない。学校についての情報提供が不足している。	・ホームページの更新が頻繁に行われ、常に学校行事や各科の学習活動・部活動の大会状況が配信されている	・学校行事について、積極的に総務部から各担当者にホームページへの掲載を依頼したり、ライブ配信によって生徒の様子を発信する。また、新聞社やテレビ局などスゴコムにも適宜情報提供をする。	・学校行事について、総務部から各担当者にホームページへの掲載を依頼したり、総務部が情報発信したりしている。また、報道機関にも情報提供する予定である。学校祭等でライブ配信によって生徒の様子を発信する準備をしている。	B	・ホームページの更新が頻繁に行われるように、常に学校行事や各科の学習活動・部活動の大会状況が配信されているように、総務部から各担当者にホームページへの掲載を依頼したり発信したりする。ライブ配信予定しているものを実施できるようにする。	

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(中間評価)			
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策		
3 地域に愛され、信頼される学校づくり	地域・産業界との交流 【各学科】	M	・企業名は知っているが、その企業の業務内容などについては知らない生徒が多い。 ・企業見学やインターンシップなどを実施するが、十分な理解には至っていない。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等を通じて、自分の希望する企業について業務内容などを理解している。 ・社会にでた際、資格取得が重要であることを理解している。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等で産業界での取り組みや意識を知る機会を設ける。企業見学については、コロナ感染拡大にそなえ、Webで対応できるように準備しておく。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、インターンシップは中止にした。新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ社会人講師による講演を検討中。	C	・社会人講師による講演などで補完を検討中。
		E	・鳥取県電業協会中部支部との共同作業で、倉吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地域に貢献した。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動について、地区民生委員の方と鳥取県電業協会中部支部と連携をし、地域に貢献した。	・イルミネーションの取り付けなど、地域産業との交流が図られている。 ・地域の家庭に向き、奉仕活動をする中で地域住民との交流が図られている。	・鳥取県電業協会中部支部との意見交換会でイルミネーション設置について、アイデアの提案等を行う。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動前後で民生委員、鳥取県電業協会中部支部、教職員・生徒との意見交換を行い連携をとる。	・イルミネーションの設置については、準備中。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動については、実施予定地域との担当者等の打合せが終了し、今後、鳥取県電業協会中部支部との打合せと校内での準備に入る予定。	B	・現時点では、予定どおり進んでいる。内容を工夫しながら、実施予定日に向けて準備を進めていく。
		C	・新型コロナウイルス感染拡大の影響から、課題研究「くらすや」「くらすサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」の実施回数が減少した。	・課題研究「くらすや」「くらすサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」を通して、地域の方々との交流や事業所との連携から、地域産業の理解が深められ郷土愛が育まれている。	・課題研究「くらすや」「くらすサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」は、新型コロナウイルス感染症予防をしっかり実施しながら、新商品の開発等学習内容の充実に向けていく。	・「くらすや」では事業所の方に来校してもらい、事業所や商品のことを説明してもらうことで、地域経済産業の理解を深めた。また、新商品開発においてアドバイスをいただきながら販売準備を進めている。	C	・新型コロナウイルス感染症対策を施し、実施回数は減らすが、課題研究(「くらすや」や「くらすサロン」)は実施する計画である。就業体験学習「ビジネス実習」については実施する方向で考えている。
		D	・意欲的に交流しようとしているが、どう楽しんで参加してもらおうかという視点が弱い。計画を立てるまでに至っていない。	・交流する相手の事を考えて計画を立てられるようになる。 ・異年齢の方々と交流することにより、コミュニケーション能力が高まっている。	・施設の方や社会人講師方の意見を伺いながら、交流の計画を立てる。 ・学習した知識や技術をいかし、生徒が主体的に行動できるよう具体的な例示を示しながら指導する。	・保育園児との交流において、生徒が主体的に計画をたて、実施することができた。	A	・コロナ禍のため校外での交流は難しいが、代替の実習を計画するなど生徒が交流できるよう取り組んでいく。
		M	・日頃の学習内容は理解できているが、それが地元の産業と、どうつながっているかまでは理解できていない生徒が多い。	・地元企業がグローバルに活躍されていることを知り、学ぶことの意義が高まっている。	・地元企業が製造されている部品が、産業界にどれだけ貢献しているか伝える。	・新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ企業見学を検討中。	C	・1・2年生の企業見学を3学期に実施予定。
	グローバルな人材の育成 (世界規模で考え、地域で行動する人材) 【各学科】	E	・新型コロナウイルスの関係で長期インターンシップを行うことができなかったが、通常のインターンシップにおいて、生徒の就業意欲が高まり、基本的な技術を身につけることができた。	・インターンシップをとおして、就業意欲が高まり、キャリア教育に対しての取組の向上が見られる。	・事前の安全教育を行うことで就業意識を高める。 ・インターンシップ最終日は各企業が学校に集まり、生徒に対して一斉の研修を行う。	・7月のインターンシップ実施が取りやめになったことで、事前の安全教育は行っていない。	C	・インターンシップの実施の有無にかかわらず、安全教育を実施する方向で準備を進める。
		C	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の受入事業先が少なくなっており、やむなく希望に合っていない実習先で体験する生徒がいた。	・生徒が希望する事業所での体験を通し、積極的な実習に取り組み、人間力と進路意識の向上が図られている。	・就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の受入事業先の新規開拓をする。 ・事前・事後の指導を徹底充実させる。	・就業体験学習の受け入れ事業所の新規開拓に力を入れ、新たに2社から受け入れの承諾を得た。しかし、7月「ビジネス実習」及び12月「インターンシップ」は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。	C	・12月実施の就業体験学習「ビジネス実習」について、新型コロナウイルス感染症対策をよく考え、事業所等に理解を求め、実施方向で計画を立てる。
		D	・学校での学習を地域の産業にどのように活かしたらよいか、理解できていない生徒が多い。	・地域産業について理解でき、自分たちが学習したことの成果などを、発信することができる。	・「企業見学」や「先輩に学ぶ」を実施する。 ・企業等と連携し、「商品開発」を行う。	・「商品開発」は、現在進行中。「企業見学」は延期、「先輩に学ぶ」は3学期に実施予定。	A	・「商品開発」については、継続して取り組む。
		M	・昨年度は初めて挑戦する資格に積極的にチャレンジした生徒もいたが、まだまだ受け身の生徒も多い。	・積極的に資格取得に取り組み、合格に向けて努力できている。	・生徒が資格取得に積極的に向かうよう呼びかける。 ・資格を取得することで達成感と自己肯定感を感じさせる。	・技能検定(前期)に20名の生徒が合格した。1年生の計算技術検定では非常に高い合格率だった。	A	・技能検定(後期)の受検者を積極的に募集する。
		E	・鳥取県電業協会中部支部に高校生ものづくりコンテストの指導を受け、2名の生徒が中国大会出場権を獲得した。	・高校生ものづくりコンテストにおいて上位に入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部の指導を受け、技術の向上を図る。	・新型コロナウイルス感染症への対応から、鳥取県電業協会中部支部による技術指導の実施にはならなかったが、高校生ものづくりコンテスト中国大会へは出場した。	C	・新型コロナウイルス感染症への対応も踏まえて、可能であれば県大会前の技術指導を受けることも検討していく。 ・12月予定の県大会に向けて技術の向上を図る。
4 専門教育の推進	専門分野の基本的知識・技術をもち、チャレンジ精神に富んだ人材の育成 【各学科】	C	・ほとんどの生徒が資格取得に積極的に取り組み成果を出している。 ・生徒間に著しい学力差がみられ、一斉授業に苦心している。	・資格取得に向けて計画的に努力し、チャレンジ精神を養っている。	・可能な限り、習熟度別や少人数の授業展開をしていく。 ・長期休業中や放課後に課外授業を実施し、上位級取得目標の生徒や学力不振生徒に対応していく。	・夏季休業期間中に課外授業や補習を実施し、学力補充の対応をした。 ・これから実施予定の検定に、生徒達は意欲的に取り組む姿勢をみせている。	B	・学力の高い生徒に対し、上位級の検定取得を促していく。 ・授業や冬季休業期間中に学力不振生徒のフォローをし、検定合格者数増加に努める。
		D	・意欲に個人差があり、取り組み状況がさまざまである。	・検定試験を積極的に受験する。また、コンテスト等に応募している。	・検定受験、コンテスト等への参加を促す。	・前期の家庭科技術検定は、意欲的に挑戦した。コンテストへの参加は、作品を制作中。	A	・後期の家庭科技術検定受験に向け、指導を継続していく。
		M	・総合選択制を活用し他学科の科目を積極的に履修するよう働きかけができています。(A選択・電気基礎・アプリケーション演習)	・将来を見据えた適切な科目選択ができています。 ・機械科以外の科目について学ぶことも重要であることを知る。	・自分の進路を見据え、自科のカリキュラムでは学べない内容を総合選択制を活用し習得するよう指導する。	・選択科目説明および総合選択制の活用方法について説明した。課題研究でくらすや来店スタンプ作成中。	B	・生徒に他学科の教科を履修することのメリットを説明していきながら、実際に他科と連携する場面を増やしていく。
		E	・くらすやにおいて、「おもちゃの病院」及び「商品提供」を行うことができなかったが、課題研究「テクニカルボランティア」においては、おもちゃの修理を行うことができた。 ・家庭学科の車椅子修理をするなど、他学科と連携することができた。	・くらすやに電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができています。	・課題研究「テクニカルボランティア」をとおして「おもちゃの病院」を行う。 ・電気工学部と連携して「商品提供」を行う。また、課題研究の中でもアイデアを出して、商品作成を行う。	・くらすやのオープン(10月下旬)に合わせて、おもちゃの病院を準備中。商品の製作についても、電気工学部を中心に検討中。	C	・くらすやで商品提供ができるよう、アイデアを出していく。
		C	・課題研究「くらすや」において、他科から販売商品を提供してもらっている。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」や「アプリケーション演習」で、ビジネスマナーや基礎的なワードやエクセル操作を習得している。	・課題研究「くらすや」の商品を提供する他科に、消費者の反応や意見をフィードバックすることで、ニーズある商品作りに活かされている。 ・ビジネスコミュニケーションの知識や技能を習得し、学校生活で実践している。	・課題研究「くらすや」にて、消費者と積極的にコミュニケーションをとり、商品に関する感想や意見を丁寧に聴く。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」「アプリケーション演習」「ビジネス基礎」の魅力を伝え、履修を促す。	・他科の生徒が選択する「アプリケーション演習」では、「ワード」や「エクセル」を使用の検定試験に挑戦する生徒が出てきた。	C	・課題研究「くらすや」において、他科からの商品提供をお願いする際には、ニーズのある商品について伝え、学科の特徴が出るような商品を提案していく。
	学科の枠を超えた取組の実践 (総合選択制) 【各学科】	D	・ビジネス科と連携し、くらすやへ商品提供を行っている。	・くらすやに商品の提供している。 ・工業学科とも連携を行っている。	・他学科との情報交換を積極的に行い、連携の方法を模索する。	・「くらすや」へ商品提供の予定。 ・課題研究の商品開発で使用する「型抜き」の製作を機械科に依頼し、製作した物を活用した。	B	・他学科との連携を模索する。
		M	・学校全体の時間外業務について昨年度は平成29年度比50.3%減と大幅に減少したが、個々を見ると、月45時間、年360時間を超える教職員は少なくない。改善が必要である。 ・部活動自体は県のカイロラインや本校の規定に従って運営されているが、複数顧問の役割分担が不十分で、時間外が多くなっている教職員は多い。	・全県における時間外業務の上限である月45時間、年360時間を遵守する。 ・複数顧問の業務分担を意識し、毎月の部活動計画を早めに作成しながら各々の顧問の時間外業務が月45時間を超えない。	・衛生委員会等を活用しながら、各々の時間外業務の内容を分析し、その原因について対応を講じる。 ・勤務時間の割振の徹底や長期休業中の休暇取得に対する呼びかけを行い、時間的な時間外業務の量だけでなく、心身のリフレッシュ及びストレスの軽減を行う。	・9月の段階で時間外業務月45時間(年360時間)以上の者は累計で12名 ・部活動指導により時間外業務が多くなっている。 ・個々で時間外業務を発生させない努力は行っているが、トータル業務量の縮小には至っていない。 ・比較的年休等の休みが取りやすい状況は作れている。	C	・部活動計画表及び部活動実績簿を活用し、顧問間で部活動時間の偏りがないように平準化を図る。 ・担任として共通している業務については洗い出しを実施し、分担できるものについては他教員と分担する。
		E	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の受入事業先が少なくなっており、やむなく希望に合っていない実習先で体験する生徒がいた。	・生徒が希望する事業所での体験を通し、積極的な実習に取り組み、人間力と進路意識の向上が図られている。	・就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の受入事業先の新規開拓をする。 ・事前・事後の指導を徹底充実させる。	・就業体験学習の受け入れ事業所の新規開拓に力を入れ、新たに2社から受け入れの承諾を得た。しかし、7月「ビジネス実習」及び12月「インターンシップ」は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。	C	・12月実施の就業体験学習「ビジネス実習」について、新型コロナウイルス感染症対策をよく考え、事業所等に理解を求め、実施方向で計画を立てる。
		D	・学校での学習を地域の産業にどのように活かしたらよいか、理解できていない生徒が多い。	・地域産業について理解でき、自分たちが学習したことの成果などを、発信することができる。	・「企業見学」や「先輩に学ぶ」を実施する。 ・企業等と連携し、「商品開発」を行う。	・「商品開発」は、現在進行中。「企業見学」は延期、「先輩に学ぶ」は3学期に実施予定。	A	・「商品開発」については、継続して取り組む。
		M	・昨年度は初めて挑戦する資格に積極的にチャレンジした生徒もいたが、まだまだ受け身の生徒も多い。	・積極的に資格取得に取り組み、合格に向けて努力できている。	・生徒が資格取得に積極的に向かうよう呼びかける。 ・資格を取得することで達成感と自己肯定感を感じさせる。	・技能検定(前期)に20名の生徒が合格した。1年生の計算技術検定では非常に高い合格率だった。	A	・技能検定(後期)の受検者を積極的に募集する。

A [90%以上] B [89~70%] C [69~50%] D [49~30%] E [29%以下]